

# 令和元年東京都人口動態統計年報 (確定数) のあらまし

## 1 出生

### 出生数は 5.0% 減少

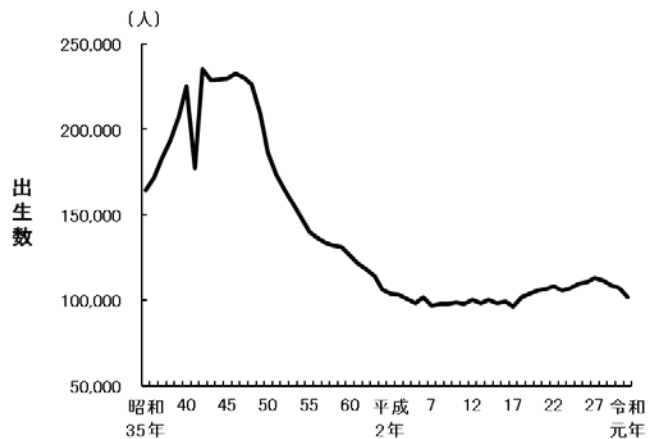
令和元年の出生数は 101,818 人で、前年の 107,150 人より 5,332 人 (5.0%) 減少した。人口千人あたりの出生数を表す「出生率」は 7.6 で前年の 8.0 より低下した。

【人口動態統計年報 (以下「年報」という。) 第 1 表】

全国の出生率は 7.0 で、前年の 7.4 より低下した。

【年報第 5 表】

図 1 出生数の年次推移 (東京都)



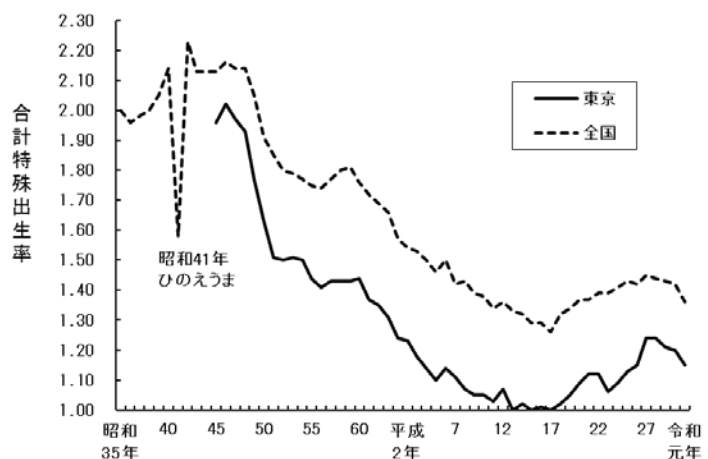
### 合計特殊出生率は 0.05 ポイント低下

令和元年の合計特殊出生率<sup>※</sup>は 1.15 で、前年の 1.20 より 0.05 ポイント低下した。(年報「調査の概要」の「6 利用上の注意」を参照)

【年報第 3 表】

区市町村別にみると、区部での最高は中央区 (1.38)、最低は中野区 (0.93)、市部での最高は稲城市 (1.48)、最低は国立市 (1.06)、町村部での最高は利島村 (2.78)、最低は御蔵島村 (0.48) だった。(別表参照)

図 2 合計特殊出生率の年次推移



注 昭和 44 年までは、東京都の継続した数値はない

※ 合計特殊出生率

15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの。

1 人の女性が仮にその年の年齢別出生率で一生涯の間に生むとしたときの子供の数の数に相当する。

なお、算出に用いた出生数の 15 歳及び 49 歳には、それぞれ 14 歳以下、50 歳以上を含んでいる。

## 全ての階級で出生数が減少

出生数を母の年齢（5歳階級）別にみると、全ての階級で前年より減少した。

### 【年報第6表】

平成10年からは25～29歳に代わって、30～34歳の出生数が最多となり、更に、平成21年からは35～39歳の出生数が25～29歳の出生数を上回っている。

また、30歳代の出生数は4年連続減少し、40歳代の出生数も3年連続減少した。一方、全国と東京都の出生割合を比較すると東京都の30歳代及び40歳代の出生割合が高くなっている。

（表1）

図3 母の年齢別出生数の年次推移（東京都）

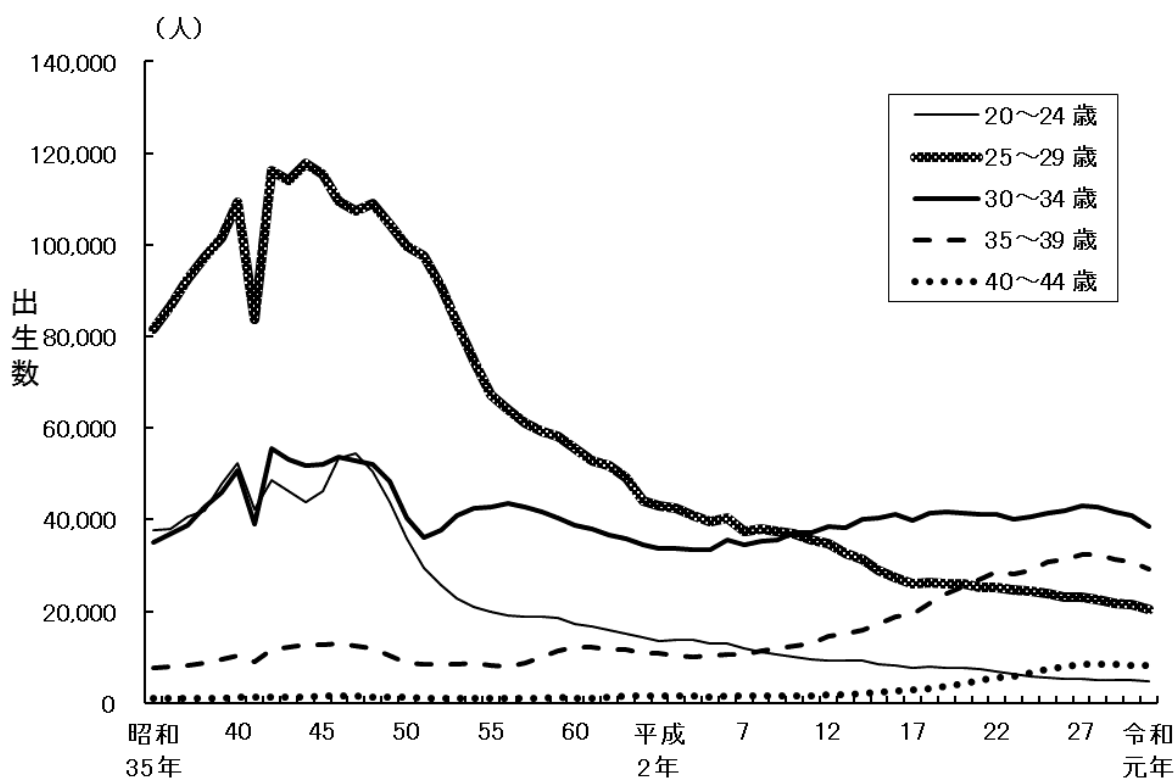


表1 母の年齢別出生数、総数に対する割合

母の年齢	15歳未満	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50歳以上
	出生数（人）								
全国	40	7,742	72,092	220,933	312,582	201,010	49,191	1,593	56
東京都	2	453	4,610	20,525	38,621	29,131	8,158	306	12
	総数に対する構成割合（%）								
	※小数第三位まで表示								
全国	0.005	0.895	8.332	25.534	36.127	23.232	5.685	0.184	0.006
東京都	0.002	0.445	4.528	20.159	37.931	28.611	8.012	0.301	0.012

全国・・・「令和元年(2019)人口動態統計（確定数）の概況」第4表－(1)（厚生労働省）

## 2 死 亡

### 死亡数は1.4%増加

令和元年の死亡数は120,870人で、前年の119,253人より1,617人(1.4%)増加した。人口千人あたりの死亡数を表す「死亡率」は9.0で、前年の8.9より上昇した。

#### 【年報第1表】

全国の死亡率は11.2で、東京都の方が低い値となっている。

地域別に死亡率をみると、区部は8.4で東京都全体(9.0)より低くなっている。

一方、市部は9.1、郡部は17.4、島部は17.3で東京都全体(9.0)より高くなっている。

#### 【年報第4表】

また、乳児死亡数(生後1年未満の死亡)は146人で、前年の183人より37人(20.2%)減少した。出生千人あたりの乳児死亡数を表す「乳児死亡率」は1.4で、前年の1.7より低下した。新生児死亡数(生後4週未満の死亡)は59人で前年の71人より12人(16.9%)減少した。出生千人あたりの新生児死亡数を表す「新生児死亡率」は0.6で、前年の0.7より低下した。【年報第1表】

### 死因別死亡数は「悪性新生物<腫瘍>」が第一位

死因別にみると、死因順位の第一位は昭和52年以降連続で「悪性新生物<腫瘍>」である。「悪性新生物<腫瘍>」による死亡者数は34,082人(28.2%)で、前年の34,129人より47人(0.1%)減少した。

第二位は「心疾患」(15.3%)、第三位は「老衰」(8.7%)、第四位は「脳血管疾患」(7.3%)、第五位は「肺炎」(6.7%)となっている。

#### 【年報第8表】【年報第9表】

全国も上記の順位は東京都と同じである。【年報第8表】

図4 死亡数の年次推移(東京都)

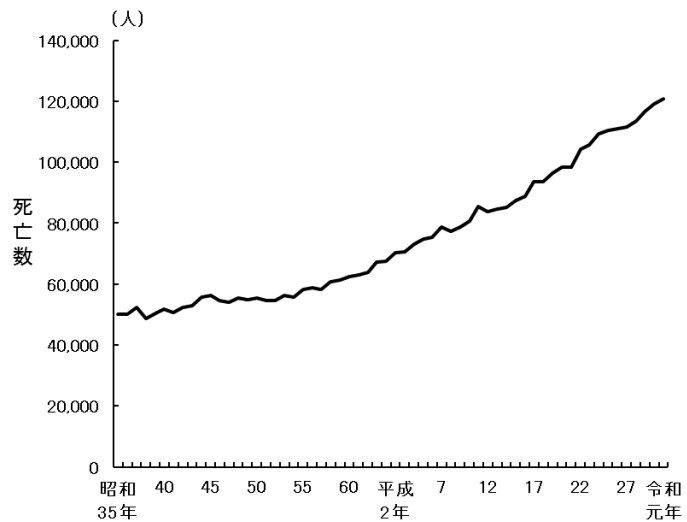
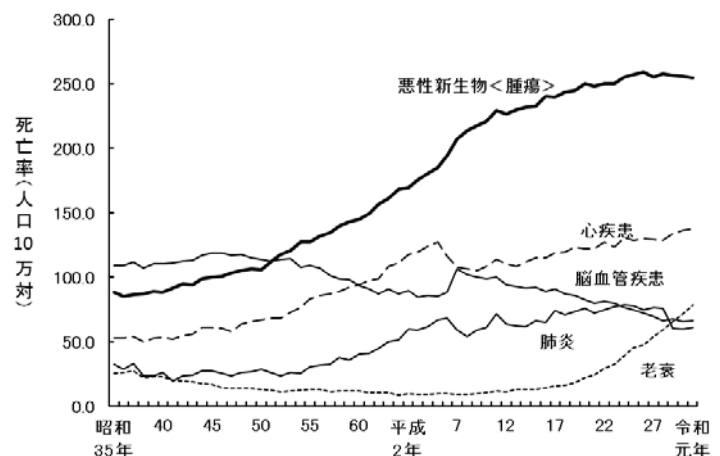


図5 主要死因別死亡率の年次推移(東京都)



### 3 自然増減

#### 自然増減は4年連続減少

令和元年の自然増減\*数は△19,052人で、4年連続の自然減となった(前年は△12,103人、前々年は△7,463人、3年前は△1,451人)。

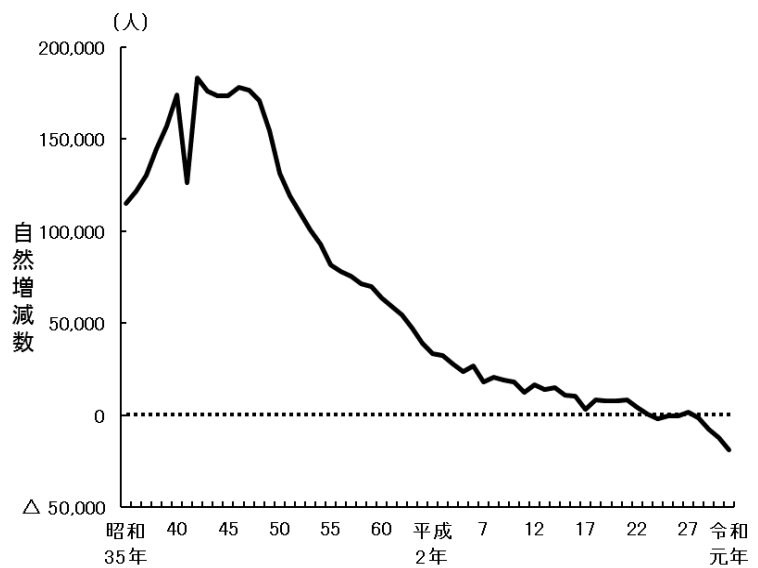
また、人口千人あたりの自然増減数を表す「自然増減率」は△1.4で、前年の△0.9より低下した。

【年報第1表】

※ 自然増減

出生数から死亡数を減じたもの

図6 自然増減数の年次推移(東京都)



### 4 死産

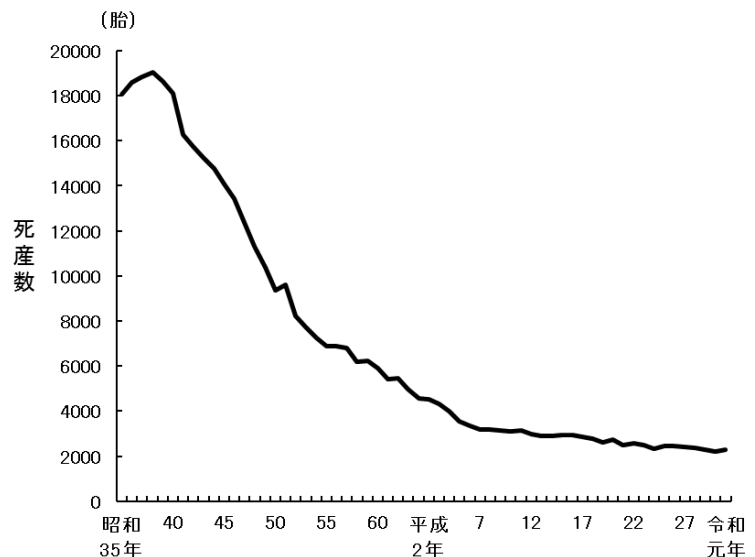
#### 死産数は増加

令和元年の死産数は2,303胎で、前年の2,201胎より102胎(4.6%)増加した。

また、出産千人あたりの死産児数を表す「死産率」は22.1で、前年の20.1より上昇した。

【年報第1表】

図7 死産数の年次推移(東京都)



## 5 婚姻

### 婚姻件数は増加

令和元年の婚姻件数は 86,059 組で、前年の 82,716 組より 3,343 組 (4.0%) 増加した。

人口千人あたりの婚姻件数を表す「婚姻率」は 6.4 で、前年の 6.2 より上昇した。

#### 【年報第 1 表】

全国の婚姻率は 4.8 で、東京都の方が高い値となっている。

地域別にみると、区部は 7.0 で東京都全体 (6.4) より高く、市部は 4.4、郡部は 3.0、島部は 5.1 で東京都全体より低くなっている。

#### 【年報第 4 表】

東京都の平均初婚年齢は夫 32.3 歳 (全国夫 31.2 歳)、妻 30.5 歳 (全国妻 29.6 歳) で、夫・妻とも全国で最も高い。(表 2)

図 8 婚姻件数の年次推移 (東京都)

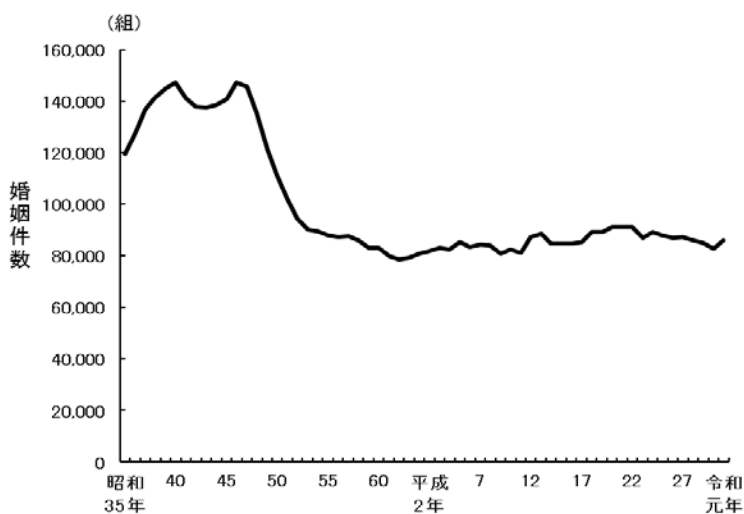


表 2 平均初婚年齢、東京都と全国の比較

	平成 30 年		令和元年	
	夫	妻	夫	妻
全国	31.1	29.4	31.2	29.6
東京都	32.3	30.4	32.3	30.5

出典:「令和元年(2019)人口動態統計(確定数)」婚姻 第 9-12 表 (厚生労働省)

## 6 離婚

### 離婚件数は増加

令和元年の離婚件数は 22,707 組で、前年の 22,706 組より 1 組 (0.004%) 増加した。

人口千人あたりの離婚数を表す「離婚率」は 1.69 で、前年の 1.70 より低下した。【年報第 1 表】

全国の離婚率は 1.69 で、東京都と同率となっている。

地域別にみると、郡部は 1.70 で東京都全体 (1.69) より高く、市部は 1.49、島部は 1.52 で東京都全体より低くなっており、区部は同率 (1.69) である。

#### 【年報第 4 表】

図 9 離婚件数の年次推移 (東京都)

